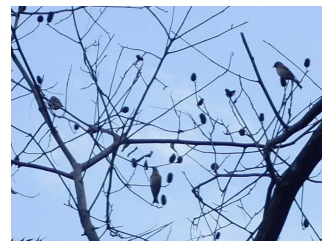


よく移動する

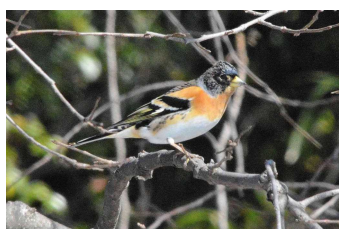
1. アトリ

日本で越冬するスズメ大の小鳥で、大群を作ります。渡ってきた当初は山地で出会いますが、雪が降るようになると農地で見ることが多くなります。水田に降りて採餌していた数百～数千の群れが一斉に飛び立ち、上空を舞う鳥です。

打吹山では、早い時期に数十羽の群れが木の種子を食べ尽くして移動していきます。キョッ キョッ という鳴き声で上を見上げると、葉が落ちて枯れ木のようなノグルミの枝に、たくさんの個体が花が咲いたように止まり、果穂をつついていきます。太い嘴(くちばし)で鱗片をこじ開け、中の種子を食べているのです。絶えず鳴き声を出して、1羽が飛び



枝の先端はノグルミの果穂
2つに割れた尾を持つアトリ



茶と白の特徴的な色彩の
アトリ

立つと全員がそれに続き、次の木に降り立ちます。たくさんの個体なのでどれかが動いていることになり、落ち着きのない群れ行動をします。

林床に降りて採餌していることもあり、一斉に飛び立つと驚かされます。イヌシデやカラスザンショウのようなかたい種子を食べ尽くし、やがて姿を消してしまいます。

イカルやウソと同じく太い嘴をもつ鳥の代表で、アトリ類と呼ばれています。茶と白の特徴的な色彩から他の鳥と間違えることもないのですが、下から上を見上げるため、シルエットとしてみることも多く、太っちょの胴体に先の2つに割れた短い尾もアトリの特徴です。

2. センボンヤリの種子

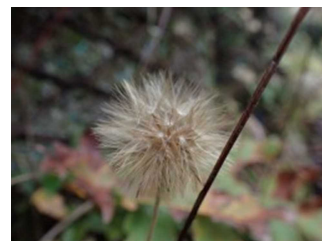
何ともうらぶれた感じのする草の穂です。20～30cmの茶色に枯れたような細い茎の上にザンバラ頭のような茶褐色の毛が生えているのですが、これが秋のセンボンヤリに種子が実った光景です。大名行列の毛槍になぞらえた名称ですが、もっと威厳が欲しいものです。

9月に小型のタンポポの蕾(つぼみ)のような花茎を何本も立ち上げます。これが千本槍に見えたのです。この総苞片(そうほうへん:萼(がく))のようなものに包まれた、たくさんの花の集まり(頭花という、キク科の特徴)は、開花することなく枯れ色になっていきます。秋も終わりに近づくと、総苞片が開いて毛槍が飛び出します。

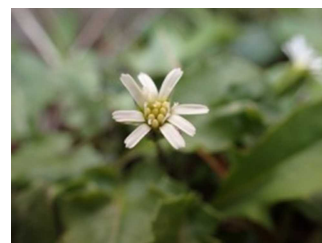


センボンヤリの種子

開花しないのですが、蕾の状態です。果実はできています。このような花を閉鎖花といいます。春には白い花弁を持つキクのような花を咲かせますが、種子はほとんどが中身のない秕(しいな)です。秋の閉鎖花が、繁殖の主力となる種子を飛ばすのです。



毛槍の穂先



春のセンボンヤリの花

日当たりを好む草ですから、他の草木が増えると絶えてしまいます。冠毛(かんもう)を持ったたくさんの種子を飛ばすことで、開けた場所を絶えず探している植物です。長谷の展望台の下辺りの日当たりの良い遊歩道はセンボンヤリの好みの環境なのです。